

国語 解答例

問一 ①象徴 ②表舞台 ③こぶ ④かんき ⑤駐留 ⑥襲(った) ⑦ほうらく ⑧検問

⑨補佐 ⑩いかく ⑪想起 ⑫さんげき ⑬添付 ⑭信奉

問二 Aさらに、Bそして、Cだからこそ、Dところで、Eしかし、Fつまり

問三 (ア)○ (イ)× (ウ)× (エ)○

問四

米軍では、空爆に誤爆は付きものであり、その誤爆の比率がときどき問題になったとしても、誤爆そのものは必要悪だと考えられ、犠牲になったイラク市民の死者数やイラク兵士の死者の数字を確定する計画もないから。(二〇〇字)

・誤爆によって犠牲になったイラク市民や空爆でのイラク兵士の死者への想像力を踏まえ、「必要悪」や「死者の数字」といった概念を「リアリティー」に繋げて文意をおさえているかどうか。

問五

アメリカが連日にわたりアフガニスタンを空爆しているニュースが一日中流れているのを聞き、米軍基地の中にある沖縄の現実を踏まえ、沖縄戦を体験した老母がその記憶を想起して、むせび泣いていると言う内容である。(二〇〇字)

・アメリカのアフガニスタンへの空爆、米軍基地の中にある沖縄といった「現実」を踏まえ、沖縄戦を体験した老母がニュースによって「記憶」と「リアリティー」を連鎖した説明があること。

1

問六

沖縄県民は戦争体験者を中心に、日本に侵略されたアジアの記憶を共有し、今も米軍基地の中にある「沖縄のリアリティー」を感じながら、メディアで伝えられる他国で死傷した「普通の人びと」の姿に、沖縄戦の体験や記憶を重ねて共に苦しんでいる。だからこそ、生活に根ざした平和運動の参加者には「殺されたくない」という反戦の理由があり、戦闘力のない女性や子ども、老人の生存が脅かされることへの危機感から心が共鳴していると考ええる。

(二〇四字)

・表記、字数(適切であるか)

・内容(文章で表現されている内容についてよく理解し、沖縄戦と今世紀に入ってから戦争の問題として想像して、反戦や平和運動の参加者の動機について思考しているかどうか)——「普通の人びと」が戦争のニュースに触れ、「沖縄のリアリティー」から「反戦」の理由を立ち上げ、「生活に根ざした平和運動」に参加や共鳴することについて記述すること。